感謝・貢献・奉仕の心で、地域密着型の商売を貫く

有限会社和泉屋商店　小林忠治さん

家族とともに商いに心血を注いで半世紀。「有限会社和泉屋商店」4代目当主を務める小林忠治さんは、ガス・灯油などの燃料や雑貨・日用品の販売を通じて地域との絆を深めて来た。「昔はこの辺りにも田園風景が広がっていて、ウチのお客さんも農家さんばかりだった」と、町の変貌ぶりと自らの歩みについて語っていただいた。

■ 創業120年の老舗として感謝の心で

屋号の「和泉屋商店」に表れているように、当家のルーツは大阪にあります。大阪から新潟県の直江津、高田を経て長野の赤沼、西之門、そして川中島と、各地で“なんでも屋”としてお世話になってきたそうです。川中島だけでも私で4代目、創業約120年の長きにわたり商いを続けて来られたことに大変感謝しています。

■ 時代の変化と共に在る商売の厳しさ

私たちが西之門からここ川中島に移り住んだのは私の曾祖父の代でした。同じ長野市とは言え、善光寺の門前町とここでは随分と勝手が違ったことでしょう。当初、曾祖父は商売の基盤づくりに奔走したことと思います。一方、祖父の代では業種の幅を広げるなど、時代の後押しもあって新たな展開がありました。しかし父の代になると立ち行かなくなる事業が増え、関係各所に頭を下げて回るようなことも頻繁にあったと記憶しています。私は若い頃から家業を手伝ってきましたから、祖母が早朝5時から夜9時頃まで働き続ける姿や父の苦労を間近で見てきました。そして、時代の変化や町の変貌に翻弄される商いの厳しさを、何度となく痛感させられました。

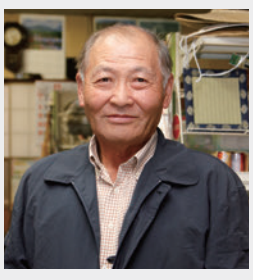
「若手を育てるのはベテランの義務だけど、考えているだけではダメ。組織や社会を変えたいなら実践あるのみ！」と、小林さん。実際、法人会川中島部会では若手に役を任せて活躍を促したり、年齢や肩書きにとらわれぬ関係構築のために活動内容にも工夫を凝らしている。

■ 大きな危機を経験したからこその変化

かつてはこの辺りものどかな農村地帯だったため、当店は農作業に追われるお客様の生活ペースに合わせたサービスの提供と要望に添った品揃えを心掛けてきました。こうして地域との絆を重視し地道にやってきたつもりでしたが、一気に多額の負債を抱える大きな失敗も経験しています。あの時は、幼い息子を背負ってでも銀行に掛け合うなど公私にわたって支えてくれた妻や曾祖父の代から続く「和泉屋」の名に助けられて、何とか窮地をしのぐことができました。この一件以降、当時すでにほぼ経営を任されていながら判断や見通しの甘さがあった自分を深く反省し、失いかけた信用を取り戻すべく、できることは何でもお引き受けする姿勢を貫いて来ました。

■ 偉ぶらず、怒らず、横のつながりを大切に

私が心掛けているのは、誰に対しても偉ぶることなく相手の主張に耳を傾けること。腹が立っても、まずその出来事を自分の中で冷静に受け止めること。また、人は一人では大きくはなれませんから、立場も業種も超えた横のつながりや周囲との和を重んじる姿勢を保ち、何でも相談できる味方をつくることも大切だと思っています。

小林忠治（こばやし・ただはる）
有限会社和泉屋商店 代表取締役

面倒見が良く、困った人を見付けると放っておけない性格。“ただはる坊ちゃん”をもじった“タボちゃん”の愛称で周囲から広く慕われ頼られる存在。